


1月7日 逍遙 

人間と猫

それぞれの新年、のこころ

ワタシのお店のすぐ近くにある照國神社。逍遙館長さんの話では、ここは元々、徳川時代に東照宮の別当寺として創建された南泉院という天台宗のお寺があったそうで、第11代薩摩藩主・島津齊彬の遺徳を偲ぶため、幕末の1864年、この南泉院の郭内に照國神社の社殿が完成したのだとか。(南泉院自体は、薩英戦争の頃に小野へ移転し、明治元年の廃仏毀釈で廃寺となった)お正月になると、猫のワタシでも人間達の人出が気になり、毎年、探勝園を横切って境内の様子を見物に行くのですが、初詣とやらで本当に大勢の人間達でごった返しているのが例年の光景でした。でも今年は、「新型コロナウイルス」のせいか、人間の出足もかなりばらけているよう。人間達は今年も、様々な制約を強いられることになるのでしょうか？

でも、ワタシ達・猫は、人間達のように戸惑うこともなく、そして何よりも無駄な喧嘩をしなくても済むように、「ソーシャル・ディスタンスの確保」という猫社会のルールをこれまで通り守る、ただそれだけでいいのです。

次回「「思考の大転換」を目指す、のこころ」

